

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2270400209		
法人名	特定非営利法人 ヘルスケアサポート協会		
事業所名	グループホーム 伊東 B		
所在地	静岡県伊東市字水口 1105-25		
自己評価作成日	平成22年2月5日	評価結果市町村受理日	平成22年3月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosin/informationPublic.do?JCD=2270400209&amp;SCD=320">http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosin/informationPublic.do?JCD=2270400209&amp;SCD=320</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所
所在地	静岡県静岡市駿河区馬淵2-14-36-402
訪問調査日	平成22年2月26日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

昨年指示された事を改善し、地域に密着し関わりを持って生活し、利用者様に穏やかに落ち着いた生活を提供できるように力を入れている。その結果、いろいろな行事にはたくさんのボランティアの方々が参加してくださったり、ご家族も大勢参加され皆様楽しく過ごしていただいている。また、運営推進会議等も町内会長や民生委員、地域包括職員と、いろいろな方の協力をいただきながら開催でき、町内の行事にも参加し、地域と密着した生活ができています。広大な庭を利用し、利用者様と職員で畑を作り、いろいろな物を収穫し、特にさつま芋の収穫には大喜びされ、芋ほりや焼き芋大会を行ない、残った芋でおやつを作り、ご家族にも召し上がっていただき、大変好評を得た。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

庭が広く、畑もあり、広々とした敷地内に平屋造りである。廊下・共用空間・居室など各部屋も広く、窓が大きく明るい。職員の異動が少なく、対応も穏やかである。離職率が低いことが、イベントや行事など利用者に目を向けた活動ができることにつながっている。管理者はその場で注意することを旨としており、常にその場での改善を促している。職員も素直で向上心があるため、改善力が高い。今後は職員全体の看護力をつけたいと考えており、研修などへの取り組みを検討している。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場合やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	昨年の外部評価で理念が地域密着に添っていないと指摘を受け、4月に職員一同で理念の改正を行い、実践している。地域のボランティア等の協力も増え効果が見えている。	一人ひとりが意見を持ち寄り、職員ミーティングを3~4回開催する中で、職員全体で理念を作っている。したがって、愛着もあり、全ての職員で共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入会し、町内の行事参加や常会等の出席等をしたり、会長様の運営推進会議の出席をしていただいて交流している。	町内会に加入し、町内行事への参加ならびに回覧板の取り次ぎなど、地域活動に参画している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年2回の大きな行事や運営推進委員会等で地域のボランティアの方々や民生委員、地域包括の職員の方々に協力を得たり、同じ組の方々にも外出時の挨拶やいっしょに行う草刈等で支援をお願いしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	評価の確定が出た後の運営推進会議の調査報告をし改善点等を話し合い昨年は理念の改正に関しての意見等をいただいた。	運営推進会議はおおむね2ヶ月に1回行われている。メンバーは、民生委員、町内会長、包括(市の代行)、家族、大家など。また、会議を通じてご縁が膨らみ、ボランティアの輪が広がっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政とは生保の利用者様を預かったりしていることもあり、連絡を密に取り合いながら、指導を受けている。担当者には、介護保険上の変更等もすばやく連絡いただき支援していただき助かっている。	運営推進会議には出席いただけていないが、情報提供やアドバイスは密にもらえている。事業所側も細かなことも電話ではなく、直接出向くようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年、玄関の施錠の開放を試みるも、失敗している。健脚な帰宅願望の激しい方等がいるための理由はあるも今後も努力していきたい。ベッドより転倒の危険がある利用者様1名は床での就寝対応をしている。	玄関の施錠はあるが、屋内の雰囲気は穏やかで、安らぎ感が漂っている。スピーチロック的な発言は物理的にしてしまうこともあるが、なぜ必要だったかについてミーティングなどで話し合うようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はあってはならないもので、グループホームについては特に言葉の虐待を見逃さないように心がけ、職員一同防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度の研修等は受けて入るも、それらを活用したり出来る利用者の機会がまだなく、今後ご家族等必要性がでてきたときには支援できるように職員とも研修を積んでいく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時等に項目ごとにご家族や利用者様に納得をしていただけるような十分な説明を心がけ、改定等の際は文書で連絡したり家族会等で説明し理解をしていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会を定期に開催し、いろいろな意見を拝聴し、その後の運営にいかにか反映できるか職員等と会議で討議し実行している。	バーベキューを主体とした年2回の家族会は和気藹々とした状態にあり、忌憚のない意見をいただけている。細かなことまで言っていたけらるので、感謝している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、全体会議やリーダー会議を開催し、職員の意見や提案を話し合いより良い運営が出来るように心がけをしている。	2ユニットあるので、それぞれの意向や考えが異なる場合もあり、ユニット間の意見調整は日々ある。職員は、個人的な悩みについて管理者に言えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業環境に対して職員が意欲を持って向上しながら勤務が出来るように給与水準等も出来る限りの配慮をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量の把握やそれにあつた環境づくりを心がけケアの向上に努めているがなかなか研修の機会が確保できずにいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は大いに交流の機会が保てている。職員も勉強会やボランティア等で他の施設を訪問したりしてサービスの向上が出来るように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っている事などを傾聴し何でも話ができるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時等にご家族の心配事、要望等を聞き、安心して利用していただけるように心がけ、来訪時等にも状況の説明し、関係作り努めているを		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族からの希望や本人の要望、又、ケアマネージャーからの資料を職員でカンファレンスをし、しっかり支援を見極めてから、対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様一人ひとりを把握し、それぞれの考え等を傾聴しながら、信頼し、生活を共にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と本人の関係を大切に、皆で支えていくように常にコミュニケーションを取りながら話し合い、何が本人にとって良いか等を前向きに検討し決めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族、友人が気軽に訪問したり、一緒に外出したり出来るような関係作りを支援している。又、ご家族の都合で来訪が遠のいたりした時は、昔の話をさせていただいたり少しでも覚えているような支援をしている。	イベントの案内や状況を直接お伝えするための電話は頻繁にしている。家族に届けるお便りも利用者自身に色塗りをしてもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様本人の人格を尊重しながら行動を把握し、その中で関わりが持てるような場の設定をしたりし、皆で支えあい行動するように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されても、いつでも遊びに来ていただける事等、必要に応じて相談を受けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族や本人の思いや希望を会話や資料から把握し日々の活動等を自分の意向で進めていけるように支援している。また困難になった時には状態に沿って検討し支援している。	会話からどういう意向をもっているかを感じ取り、都度書き留め、ユニット会議に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人のなじみの生活歴に準じた生活が持続できるように資料等を検討し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりが自分のペースを保ちながら現状の把握を怠らないようにし、変化があったときの早めの対応が職員全員でできるように勤めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向やご家族の考え、入居前のアセスメント等を参考にカンファレンスを行い、現状を見極めながらセンター方式を用いて作成している。	現場の職員全員で現状把握ならびに洗い出しをしている。その情報を基に計画作成者と職員数名でケアプランを作成している。そのメンバーは状況で変動する(どの職員がでも作れるようにしている)。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録や個人記録を記入し、それらを基にカンファレンスを行い検討し情報を共有しながら対応している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族と話し合い緊急の病院への通院、自宅への荷物等を取りに行く。又、お墓参りの随行、等多機能的なサービスに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会、民生委員、さまざまなボランティアのかたがたの協力を基に楽しい日々が送れるように支援している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2度の定期の訪問回診の他に状態に変化があった時は連絡を取り、薬の処方や往診等の早い対応をしていたできるように協力しながら支援している。	訪看と主治医の往診は各週であり、実質週1回の医療関係機関の訪問を受けている。突発または家族の都合が悪い場合は、受診支援をしている。「受診報告書」を記録し、情報の共有に努めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は日常生活の中で捉えた身体的な症状や精神的な行動等を記録し、看護師に相談したりし、受診等適切な支持を得られるように協働し、利用者様の支援をしている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院した時は病院のソーシャルワーカー等と情報交換を密に行い安心して治療が受けられ早い退院ができるように努めている。また、ご家族が安心できるようにできるだけ判りやすい情報をいただけるようにしている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、本人、ご家族と十分に話し合い対応している。また、医師、看護師等と連絡を取り契約も結んでいる。終末期を迎えて時は再度、関わる方々と話し合い本人にあわせて支援の確認もしている。	「できること」「できないこと」を契約時に説明している。また、「重度化した場合における対応に係る指針」にも署名、押印もいただいている。その他のことは都度話し合うようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	申し送り等で話し合うことはあるも定期的には訓練は行っていない。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は防災管理者の指示の基、自主的に行っている。また、それに関する連絡書類も掲示し、緊急に備えている。	年2回防災訓練を行っている。備蓄は、冷凍食品を主体として十分ある。また、火元を変えるなど、条件を替えている。	備蓄にお水はあるが、水も用意されたい。また、訓練も夜間訓練に取り組まれることを期待する。	

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重した声かけや対応に留意しながら、プライバシーの尊重にも心配りを忘れないように記録等にもイニシャルにする等の注意を払っている。	声掛けは「〇〇さん」と呼ぶことにしている。ただし、なじみの呼び方がある利用者には要望に合わせている。トイレのドアを開ける、下着を脱いでしまう利用者には、職員全員で連携して取り組んでいる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を受容しながら、出来る限りの自己決定を支援しているも危険を伴い行動には、制止することもある。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事等は、一応の声かけをするも一人ひとりのペースで、していただいている。入浴等も拒否等もあるが翌日の声かけするようにしたりし希望にそい支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしくいるために、身だしなみ等にも注意を払い、頭髪は職員に免許所有者がいるため、ご家族に了承いただいたき、楽しくホームカットをしていて利用者様も楽しみにしている。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は利用者様の一番の楽しみなので、買い物から始まり、出来ることを手伝っていたり、味見をしてもらったりしながら準備し、一緒に食事を取り、かたづけをすることをしている。	利用者と職員で畑で家庭菜園をしている。ブロッコリーやサツマイモ、ジャガイモなどの収穫物をその体験を題材に食事の支度をするのが楽しみのひとつである。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの一日の食事量、水分摂取量を記録し状態や習慣に応じて量の増減の変更をしたりし支援している	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝食等一日3度食後の口腔ケアは当たり前で就寝前の義歯洗浄等も声かけや誘導等で本人に力量に応じて支援している。この1年間で歯科受診はまったく無い。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間を見て誘導したり声かけしたりながらパターンを把握し、個人に合わせて出来る範囲は自分でしていただき、失敗を少なくし気持ちよく過ごしていただけるように支援している。	時間、量、汚染、オムツの種別などを項目とする排泄チェック表をつけている。利用者によって呼応する呼び掛けが異なるが、職員は周知しており適切な誘導ができています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならないように、食べ物の工夫や運動を励行はしている。また、毎日の排泄チェック表から水分の摂取等を増やしたり薬を服用していただいたり等対処している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調を確認しなるべく入浴を楽しんでいただけるように配慮し、入浴の嫌いな方も声かけや、誘導で気分を変えていただけるようにして、清潔な体を保持出来、またリラックスできるように支援している。	基本的には週2回以上としているが、利用者の状況や要望に合わせている。毎日入る人もいる。また、何日か続けて拒否のある方には清拭対応し、清潔保持には心がけている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの入眠状況の把握をし、安心して休めるように支援している。また日中も居室で気軽に横になったりして休息を取っていただく自由を提供している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師、薬剤師からの情報提供を受け、一人ひとりについての薬の目的、効能等をしっかり把握し、適切な服用を支援し、変化の確認を見逃さないように努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	昔の歌、カルタ、塗り絵、パズル等を楽しんだり、各自の得意なことやを見つけ日々を元気あるものにするための支援をしている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりのその日の体調を確認し、希望に添って、季節ごとのドライブ等をしている。また買い物や喫茶に出かけたり、地域包括センターの催し物に出かけてりもするが、車の都合等全部の方がということにはなっていない。	温かい時期は、デッキで日光浴をしたり、散歩にも出掛ける。冬季は、リフレッシュや刺激を考え、車で買い物などの外出支援をしている。		



自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知レベルで対応、判断している。しかし、居室内では、置忘れ等で混乱がおき、他の利用者等に迷惑をかけたことがあるため、事務所で預かり必要時に渡し見守りながらの買い物となる。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話をしている。手紙のやり取りができる方が少ないが、年賀状を書ける方には書いていただき、ご家族に大変喜んでいただいている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花を植えたり、リビングには職員と利用者がいっしょに製作したカレンダーを飾って生活観を持っていただけるように工夫したりその都度行事の人形を飾ったりしてしている。	お花を生けたり、畑の作物を盛ったり、折り紙などのクラフトで季節の行事を表すなど、季節感が感じられる共用空間である。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間の中で、玄関前のソファで一人で休んだり、リビングでは、気のあった利用者同士でテレビを見たり、談話を楽しんだり思い思いで過ごせるように対応している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人やご家族と相談し使い慣れたタンス等馴染みのものを持ってきていただき、本人が居心地よく過ごせるような支援を行い、仏壇やご家族の写真等もある。	小物だけでなく、カーテンも好みのものを使ってもらっている。表札も手作りで温かみがある。ベッドの配置もその人のADLに合わせている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の居室前には表札を架けたり廊下には手すりを設置し、また、洗面所の手拭タオルの所には名前をつけたり、タオルの色を個人別に決めたりし安全に活自立した生活が送れるように工夫している。			